

田辺市(近畿圏ブロック)

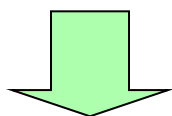
【計画期間 21年3月～26年3月】

- ・平安中頃～江戸時代 : 熊野三山参詣の要衝、城下町として発展
- ・近年 : 紀南地域の中心都市として都市機能等が集積

○郊外に大規模小売店舗やロードサイド専門店が相次いで立地し、中心市街地の空洞化が進展。

○社会保険紀南総合病院が郊外へ移転。(H17)

○郊外の住宅地に若年世帯が居住。



○歩行者・自転車通行量

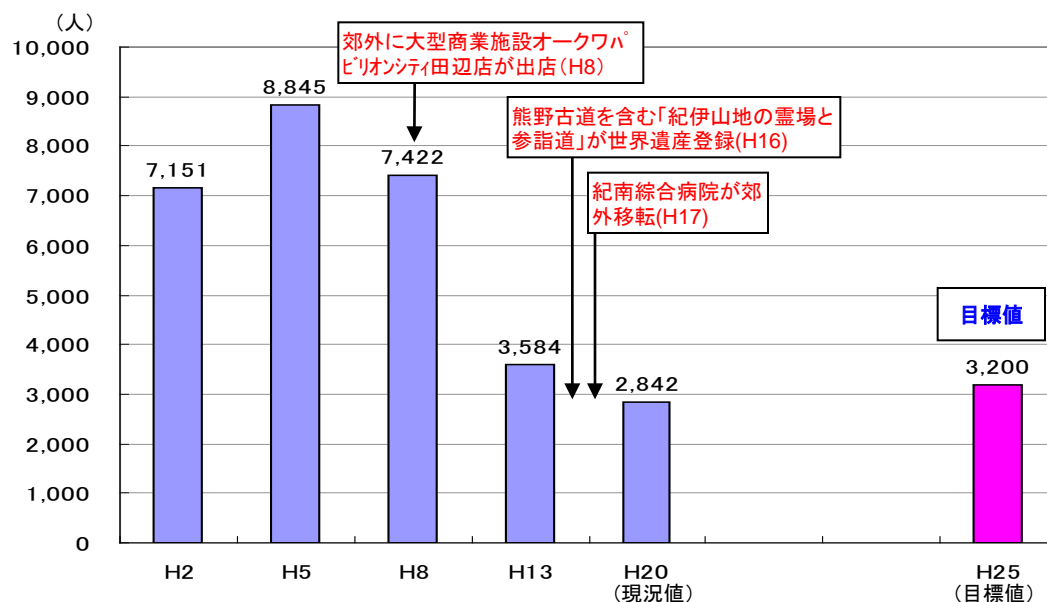
H8: 7,422人 → H20: 2,842人(▲61.7%)

○中心市街地居住人口

H10: 13,126人 → H19: 11,312人(▲13.8%)

目標	指標	現況値	目標値(H25)
街なか環境の整備や商業機能の再構築による賑わいの創出	歩行者・自転車通行量(休日・5地点)	2,842人(H20)	3,200人
都市基盤の推進による街なか居住の促進	中心市街地居住人口	11,312人(H19)	11,345人

【歩行者・自転車通行量[休日・5地点]の推移と数値目標】



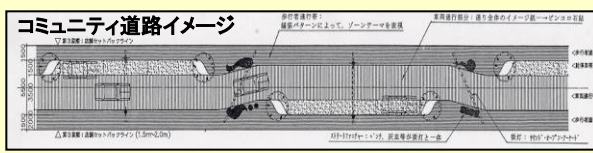
- 中心市街地のアクセス機能強化や市民等が集う拠点施設整備等により、多くの人々が訪れ回遊する街を目指す。⇒主要事業: ①海蔵寺通り街並み整備等、②銀座複合施設整備事業、③複合文化施設建設事業 など
- 子育て世代の街なか回帰を促す支援制度や住宅供給等により、人が住むことにより賑わう街を目指す。⇒主要事業: ④街なか住み替え支援事業、⑤街なか住宅供給の推進 など

田辺市中心市街地活性化基本計画の事業概要

交流の促進と商業機能の再構築による賑わいの創出

○海蔵寺通り街並み整備等による回遊性向上(①)

海蔵寺通りの沿道区画整理による東西幹線道路の整備とともに、和風デザインの新街並みに統一。併せて、交通量が少なくなる商店街内の道路を「歩車共存」のコミュニティ道路として整備。



○銀座複合施設整備事業(②)

まちなかのランドマークとして、歴史的な景観が残る建物を生かした町屋カフェ、コミュニティスペース、共同住宅の複合施設を整備。



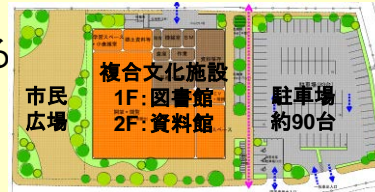
○農・商連携による賑わい創出

商店街内の空き店舗を活用し、農産物直売所「きてら」2号店をオープン。JA田辺支所(市内3支所を統合)での産品販売、弁慶市やアオイ土曜市を実施。



○複合文化施設建設事業(③)

紀南病院跡地に、市民が集い交流できる図書館と歴史民俗資料館併設の複合文化施設を整備。



○駅前広場改修と観光案内センター整備

熊野古道の玄関口として、JR紀伊田辺駅前広場を改修(交通ターミナル機能強化等)するとともに、観光案内センターを整備。

○観光施設の回遊による交流と賑わいの創出

扇ヶ浜海水浴場や、南方熊楠顕彰館への来訪者を街なかに誘導・回遊させる街歩きマップやレンタサイクル事業を実施。

街なか居住の促進

○街なか住み替え支援事業(④)

子育て世帯への民間賃貸住宅の家賃補助や、民間賃貸住宅の建設費補助を実施、FM TANABEを活用した空き家・空き店舗の情報を提供。

○街なかの教育文化環境の充実

田辺第一小学校の建替えに合わせ、校舎に公民館を併設し、地域コミュニティを強化。



○街なか住宅供給の推進(⑤)

銀座複合施設の共同住宅の整備に加え、三栖口市有地での宅地分譲を実施。

